＜プレスリリース資料＞

２０１４年2月２０日

東レエンジニアリング株式会社
フ ジ プ レ ア ム株式会社

太陽光発電設備事業拡大のための北九州市での発電事業会社設立について

東レエンジニアリング株式会社（社長　河村良一）とフジプレアム株式会社（社長　松本倫長）は、環境エネルギー分野における太陽電池関連事業の拡大のため、再生可能エネルギーの固定価格買取制度（以下ＦＩＴ）に基づく発電事業会社を共同で設立しました。

＜発表の要旨＞

１．東レエンジニアリング株式会社（以下ＴＥＫ）は２０１２年度に環境エネルギー事業部を発足し、太陽光発電設備の施工事業に参入、ＦＩＴでの市場活性化もあり、２０１２年度売上高実績は約５億円、２０１３年度売上高は約３５億円と好調に推移する見込みです。
しかし競争は激化しており、太陽光発電設備事業のさらなる拡大のためには、従来の施工事業だけでなく、新しい付加価値の創出が課題となっています。
フジプレアム株式会社（以下　フジプレアム）は兵庫県姫路市で２０００年より太陽光発電事業を開始し２０１２年度における同事業の売上は約４６億円、太陽電池パネルは現在年１００メガワットの生産能力を持っております。

２．そこで、２０１２年度下期より開始した東レ株式会社（以下東レ）地球環境事業戦略推進室などと連携した事業機会探索の中で、ＴＥＫとフジプレアムとが共同で発電事業会社を設立し、北九州市若松区に太陽光発電設備を設置して発電事業を行うことで新たな付加価値の創出と今後の事業展開におけるノウハウを取得する計画を策定しました。

３．本案件ではＴＥＫとフジプレアムが発電事業会社に出資し、設備の運用・保守までも含めたノウハウを取得する場として活用し、従来の施工事業からＥＰＣ※1）事業・Ｏ＆Ｍ※2）事業へと事業範囲の拡大を図るものです。

※1）EPC＝Engineering, Procurement & Construction；設計・調達・建設

※2）O&M＝Operation & Maintenance；運用・保守

また、東レ製の材料（バックシート、封止材など）を使用したフジプレアム製太陽光パネル、東レＡＣＥ製防草シート、東レ環境エネルギー開発Ｃで開発した発電予測システムなどの導入により、太陽光パネル～設備設計～施工～運営・保守にわたるサプライチェーンの東レグループでの構築に取り組み、東レグループの総合力を活かしＴＥＫひいては東レグループの環境エネルギー事業の拡大を狙います。

問い合わせ先

東レエンジニアリング株式会社
環境エネルギー事業部
営業部長　野田直希
Tel：０３－３２４１－２４１１

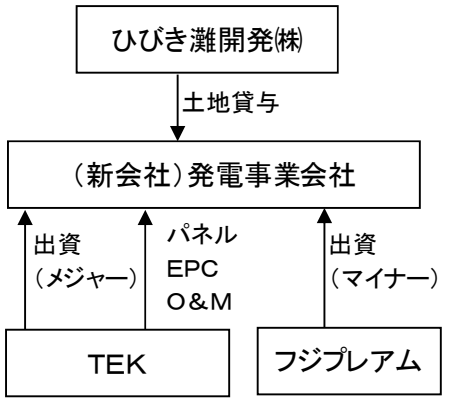
フジプレアム株式会社
統括管理部
部長　大川拓志
Tel：０７９－２６６－６１６１

Ⅰ．事業の概要

１．ＴＥＫとフジプレアムで合弁会社を設立し、ひびき灘開発㈱が北九州市若松区内に所有する７ha（ﾍｸﾀｰﾙ）の土地を新会社が賃借します。（図１）

２．新会社は太陽光発電設備の投資を実行、太陽光で発電した電気を九州電力㈱に売電します。売電期間はＦＩＴに基づき、２０１４年１０月１日～２０３４年９月３０日までの２０年間の予定です。
ＴＥＫは、設備の設計・工事・保守を新会社より受注します。

図1：本件の事業スキーム



Ⅱ．新会社の概要

１．名称　　：北九州ＴＥＫ＆ＦＰ合同会社
２．設置場所　　：北九州市若松区
３．資本金　　：１０百万円（出資比率　ＴＥＫ：フジプレアム＝６０：４０）
４．設立時期　　：２０１３年１２月(設立済み)
５．体制　　：職務執行者社長（ＴＥＫ）１名、職務執行者役員（フジプレアム）１名
６．総事業費　　：約２０億円
７．太陽光発電設備：５，７８３ｋＷ（内訳　地上設置型：5,738kW、太陽追尾型：45kW）
８．発電量　　：約６，４００ＭＷｈ／年
９．太陽光発電設備の特徴

(1)地上設置型：フジプレアムの高性能（高変換効率）単結晶タイプを使用。バックシート、封止材には東レ（東レフィルム加工）製部材を使用し長期信頼性（耐 PID 性能）が高いものとなっています。

(2)太陽追尾型（右図参照）：フジプレアムが独自開発したシステムを採用。地上置きに比較して土地の使用効率が高く、発電効率も従来の固定式に比較し１．４～１．５倍の発電量を確保できます。今回、ショーケースとしての役割もあり１０機採用し、技術力をアピールします。



Ⅲ．ＴＥＫの太陽光発電設備事業戦略

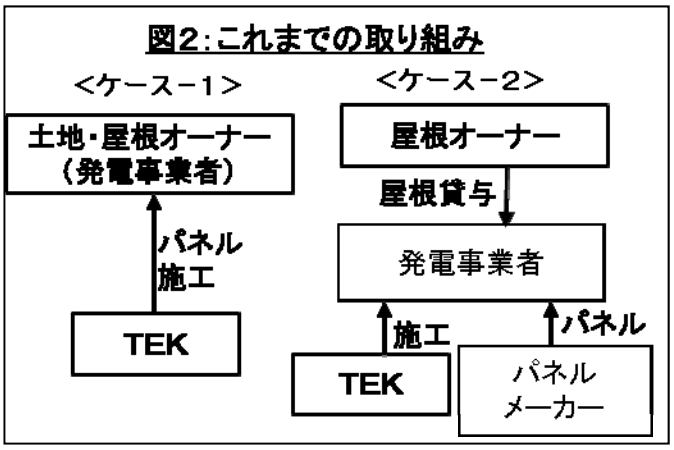
１．これまでの取り組み

ＴＥＫは２０１２年度に環境エネルギー事業部を発足し、太陽光発電設備の施工事業に参入、ＦＩＴでの市場活性化もあり着実に実績を上げてきました（２０１２年度売上高実績：約５億円、２０１３年度売上高見通し：約３５億円）。

また、東レグループ各工場における特高受電建設工事を多数経験しており、経産局や電力会社への許可申請（設備認定、系統連系申請など）のノウハウは従前から保有していますが、最近の太陽光発電設備関連事業で新たに下記のようなノウハウを獲得しました。

①太陽光パネルの設置形態や電気設備との組み合わせ最適設計・施工技術
②東レ・テキスタイルなど東レグループ案件を通じたユーザー視点での設備化支援能力
③調達先である重電ﾒｰｶｰやﾊﾟﾈﾙﾒｰｶｰとの良好な関係を通じた装置組み合せ選定要領

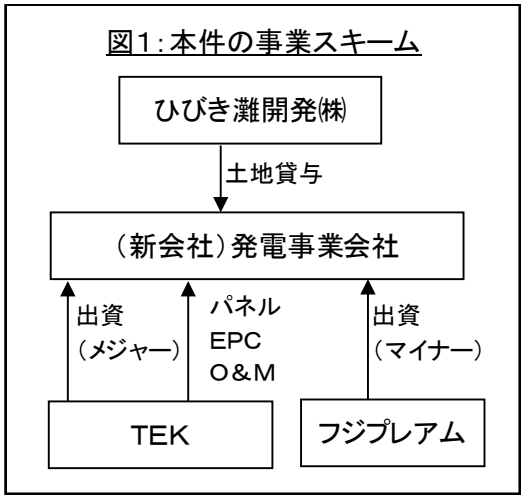
これらをＴＥＫの強みとしてきましたが、これまでの案件は図２に示す通り、発電事業者から単純に設備施工を請け負うもので、差別化要素を入れ込む余地が少なく厳しいコスト競争を強いられる構造の事業となっています。



２．本件の取り組み

そこで、本案件では、図１（再掲）に示すようにＴＥＫが発電事業にメジャー出資することで事業計画・設備設計・パネル・機器調達・建設（ＥＰＣ）を一括受注し、さらに設備の保守・運転（Ｏ＆Ｍ）も請け負います。これにより、①事業計画の策定、②発電事業の維持・管理・運営・損益状況把握のノウハウを獲得でき、今後、お客様へのフルターンキーでの業務提供を目指します。

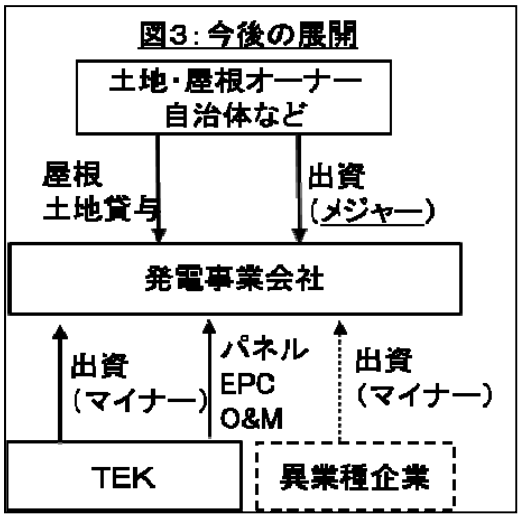
また、東レ開発の材料・技術のブラシュアップの場として活用、東レグループとの連携を図りながら、ＴＥＫの大型プロジェクトマネジメント能力などの強みを活かし、Ｏ＆Ｍも含めたＥＰＣ事業の拡大を目指します。



３．今後の展開

本案件の実行でリスクや収益性を見極めた上でさらなるＥＰＣ事業拡大のため、図３に示すように、発電事業会社にマイナー出資する事業形態も検討していきます。

この場合、パートナー選定が重要なため、自治体、異業種企業（インフラ企業など）との連携を強化、東レの信用力・ブランド力を活用し事業機会の創出につなげていきます。



４．太陽光発電設備関連の売上計画

太陽光発電設備関連の売上高は、２０１４年度：４１億円、２０１５年度：５１億円、２０１６年度：６０億円を見込みます。

Ⅳ．フジプレアムの太陽光発電事業

１．これまでの取り組み

２０００年に建材一体型太陽電池パネルの生産を開始し太陽光発電事業に参入。独自のコアテクノロジーである精密貼合技術を活用し、結晶系太陽電池パネルはもとより、採光型太陽電池パネル・フィルムタイプ太陽電池・超軽量タイプ太陽電池など特色のある製品を開発・生産。住宅用・産業用ともに毎年着実に販売量を拡大しております。（２０１２年度クリーン・エコエネルギー部門売上高実績：約４６．７億円）

フジプレアムは独自のメカトロニクス技術を持ち、兵庫県たつの市にある太陽電池パネルの生産ラインも自社で設計・開発、現在年間１００メガワット超の生産能力を保有しております。

また、このメカトロニクス技術を活用し、太陽追尾型発電システム（トラッキングシステム）を開発。積算発電量が多く（固定型の１．４～１．５倍）、パネル下のスペースが有効活用できるシステムとして、昨年より、農地（営農型太陽光発電）や駐車場への設置を進めております。

２．本件の取り組み

本案件では、フジプレアムは発電事業に出資するとともに、太陽光発電パネルや追尾型太陽光発電システムなどを供給いたします。それにより、自社の太陽光発電パネルやシステムの性能、さらに発電量と維持コスト、また合わせて事業採算性なども検証し、今後の製品やシステムの開発・生産・販売にフィードバックいたします。

また、独自開発したトラッキングシステムについては、発電データや稼動状況、そして農地や駐車場への設置・普及などの用途開発についても検証いたします。

３．今後の展開

今後、太陽光発電システムは売電目的だけでなく、防災や蓄電などの地域のインフラとしての役割や、農業など地域の産業との融合などが求められると考えております。フジプレアムとしては、ＴＥＫと共に、これらの役割を担う新しい太陽光発電システムを開発・普及させるために、新会社を通じて地域と密着し、本事業所を活用し実証してまいります。

以上